



「平和に向けての諸宗教の祈り」(5月10日世界平和記念聖堂)

広島県神社庁報
ふたば

第150号

発行所 広島県神社庁
広島市東区二葉の里
☎(082) 261-0563
FAX (082) 261-6628



新年度のご挨拶

広島県神社庁 副庁長 渡部公麿

長いトンネルに光が差し込むかのように、新型コロナウイルス感染症の収束が徐々に見えつつある中、皆様方におかれましては未だその対応に追われ、或いは神賑行事をはじめとする諸行事の再興に向け、最善の一手を打つべく日々の社頭奉仕にご尽力のことと改めまして敬意を表します。

さて、神社庁の業務においては、本年三月二十七日の令和四年度定例協議員会に先立ち、十三日に開催した役員会では神社庁庁舎に関する建設委員会の設置と委員会規程案に了承戴き、協議員会に上程し皆様方の御理解を得て無事に原案通り可決されました。

神道政治連盟では、三月一日同連盟主催の憲法フォーラムが約四七〇人という多くの参加をもって開催され、改めて現行憲法のあり方について再確認致しました。また、四月九日には統一地方選挙において、同連盟が推薦した市長選挙の立候補者である現職の松井一実氏が皆様のご協力のもと見事に四期目の当選を果たしました。

各奉務神社においては、このコロナ禍の数年間、感染症対策として分散参拝をはじめとする諸対応に追われた時間も多々あったかと存じます。しかしながらその一方で前向きな見方をするならば、新たな神社参拝のカタチを模索し、将来の神社の在り方に目を向けることができた貴重な時間であったのかもしれない。

最後になりましたが、本年度も神社庁の役職員は常に心をひとつにして、諸施策達成のために努力いたす所存でございますので、皆様にはより一層のご支援・ご協力を戴きますようお願い申し上げます。新年度のご挨拶とさせていただきます。

令和5年度 神社庁行事予定

実施予定月日		行 事	対 象	主催・担当	場 所	
令和5年	4	12(水)	青年神職会役員会・総会	青年神職	青年神職会	神社庁
		13(木)	教化委員会	教化委員	神社庁	神社庁
		26(水)	女子神祭式研修会	女子神職	女子神職会	神社庁
	5	9(火)	女子神神社参拝	女子神職	女子神職会	白神社
		17(水)	敬神婦人会総会・創立40周年記念講演	敬神婦人会員	敬神婦人会	東区民文化センター
		29(月)～30(火)	中国地区社頭講話研修会	地区神職・教化委員	山口県	山口県神社庁
	6	3(土)～11(日)	直階検定講習会(甲)(分割開催)	神職子弟他	神社庁研修所	神社庁
		13(火)	女子神日本書紀輪読*教養研修会	女子神職	女子神職会	神社庁
		15(木)	表彰委員会	表彰委員	神社庁	神社庁
		16(金)	神職教養研修会	神職	神社庁研修所	神社庁
		20(火)～21(水)	初任神職研修会(前段)	初任神職	神社庁研修所	神社庁
		23(金)	第13回神社建築視察研修会	神職	事業委員会	厳島神社他
		25(日)	第11回神社検定(ワライン開催)	一般	日本文化興隆財団	
		27(火)	身分選考委員会	身分選考委員	神社庁	神社庁
	7	2(日)～9(日)	直階検定講習会(乙)(分割開催)	神職子弟他	神社庁研修所	神社庁
		11(火)	神社庁役員会	神社庁役員	神社庁	神社庁
		11(火)	神社庁常任協議員会	役員・支部長	神社庁	神社庁
		11(火)	神政連代議員会	神政連役員・代議員	神政連県本部	神社庁
		11(火)	庁舎建設委員会	建設委員	建設委員会	神社庁
		15(土)	祭祀舞研修会(浦安の舞…扇舞)	神職他	神社庁研修所	神社庁
		7/30(日)～8/6(日)	直階検定講習会(丙)(分割開催)	神職子弟他	神社庁研修所	神社庁
		8(火)	女子神日本書紀輪読*役員会	女子神職	女子神職会	神社庁
	8	9(水)	教化委員会	教化委員	教化委員会	神社庁
		18(金)	祭祀舞研修会(浦安の舞…鈴舞)	神職他	神社庁研修所	神社庁
		24(木)	第67回広島県神社関係者大会	神職・総代他	神社庁・総代会	県立文化芸術ホール
		28(月)～9/1(金)	第80回中国地区中堅神職研修(甲)	中堅神職	鳥取県神社庁研修所	鳥取県
		29(火)～30(水)	中国地区教化会議	中国地区正副教化委員長	中国地区神社庁	広島県
		31(木)	祭祀舞研修会(朝日舞)	神職	神社庁研修所	神社庁
	9	2(土)	神職専門研修会	神職	教化委員会	未定
		5(火)～6(水)	初任神職研修会(後段)	初任神職	神社庁研修所	神社庁
		13(水)	神職身分認定証交付式	昇級者	神社庁	神社庁
		20(水)	神宮大麻暦頒布始奉告祭	役員・支部長	神社庁(三次支部)	神社庁
	11	7(火)～8(水)	中国地区神社庁職員研修会【神社庁閉庁】	中国地区神社庁職員	鳥取県	鳥取県
		9(木)	女子神日本書紀輪読*祭式	女子神職	女子神職会	神社庁
		28(火)	第69回伊勢神宮新穀感謝祭【神社庁閉庁】	神職・氏子・崇敬者	神社庁	神宮他
	12	7(木)	神社実務研修会	神職	神社庁研修所	神社庁
令和6年	1	未定	神社庁歳旦祭	三庁長・神社庁職員	神社庁	神社庁
		未定	神社庁役員会	神社庁役員	神社庁	Hグランヴィア広島
		未定	神社庁・総代会合同新年互礼会	神社庁・総代会関係者	神社庁・総代会	Hグランヴィア広島
	2	14(水)	神社庁例祭	役員・支部長・神職他	神社庁	神社庁
		未定	中国地区神社庁連絡会議	三庁長・参事	中国地区神社庁	鳥根県
		16(金)	教化常任委員会	教化常任委員	教化委員会	神社庁
		16(金)	教化委員会	教化委員	教化委員会	神社庁
	3	未定	神宮大麻・暦頒布終了奉告祭	三庁長・神社庁職員	神社庁	神社庁
		未定	参与会	神社庁参与	神社庁	Hグランヴィア広島
		未定	神社庁役員会	神社庁役員	神社庁	神社庁
未定	班斂式・定例協議員会	神社庁役員・協議員	神社庁	神社庁		

令和四年度定例協議員会

令和五年度予算・諸議案承認される

去る三月二十七日、ホテルグランヴィア広島にて令和四年度定例協議員会が開催された。

太刀掛議長進行のもと、令和四年度業務報告に続き、令和三年度一般会計並びに事業会計が報告され、いずれも報告通り了承された。

次いで令和五年度神社庁運営方針・業務計画・予算の各議案が上程され、原案通り可決決定された。

更に庁舎建設に関する議案が上程。この件に関しては、既に二月一日の「神社庁ニュース」で経過概略が掲載されていたが、先般準備委員会での協議が終了したことから、役員会に提出された報告書やこの問題に関する過去の経過を含め、事務局から縷々説明があった。

その後、役員会へ要望された次の審議機関である建設委員会の設置並びに委員会規程の協議が為され、原案通り可決決定された。

尚、建設委員会委員長には、準備委員会委員であった櫻井建弥氏の就任も併せて了承をされ、令和四年度定例協議員会は議事の全てを終了し、閉会となった。



非公表

- 令和五年度 広島県神社庁運営方針
- 一、皇室の尊厳護持に努め、季刊誌『皇室』の購読普及を図る。
 - 一、神宮大麻並びに氏神札の奉斎家庭を増やすよう努める。
 - 一、少子高齢化に伴う後継者問題など対応すべき施策の構築に努める。
 - 一、右、三項目の目的意識を明確に捉え、神職・総代一致団結して完遂に努める。

各委員会の令和四年度活動報告及び令和五年度活動計画

教化委員会

委員長 飯田誠

令和四年度 活動報告

教化委員会 三回開催

委員長部会長会 三回開催

中国地区社頭講話研修会（於：島根県神社庁）

中国地区教化会議（於：岡山県神社庁）

全国教化会議（於：本庁）

【研修部会】

・教養研修会（六月二十八日、参加者四十九名）

・神職専門研修会「祭式・衣紋」（九月三日、参加者二十六名）

・神職実務研修会（十二月五日、参加者四十七名）

【奉斎・広報部会】

・神宮大麻頒布推進「パンフレット」

七万部作成（本務宮司三〇四名×一〇〇部、追加送付一、九七五部 在庫七、二五部）

今後の参考のため、パンフレットに関してアンケートを実施

教化ポスター

神社へ参拝し、お神札を受けて奉斎すること繋がるような内容にする。

テレビCMのモデルを使うことで視覚的な一貫性を狙った。

神社庁年末年始テレビCM 広島ホームテレビ 年末年始五十本

【調査・研究部会】

・第二期過疎地域神社活性化推進対策

拠点支部 ↓ 三次支部の活動について

十一月六日に宗像神社（佐々木潔宮司）にて「みらさか沖江田楽花田植え」開催

指定神社 ↓ 山県西支部 亀山八幡神社（中東勇太郎宮司）にて、部会長が

ドローン撮影を協力し、今後の広報等に活用予定。

令和五年度活動計画

中国地区教化会議開催（八月二十九～三十日 広島市内）

【研修部会】

・教養、専門、実務の三研修会を開催予定

今後、本庁が定める長期計画に関連、祭式、不活動対策等の研修

【奉斎・広報部会】

・教化ポスター作成、神宮大麻奉斎テレビCMの放送

・亀山八幡神社の中東宮司の取り組みに対し、長期的な取材を広島テレビに依頼。

【調査・研究部会】

・第二期過疎地域神社活性化推進施策

指定支部、指定神社への支援活動

祭祀委員会

委員長 福場快之

① 祭式部会

4月26日

広島県女子神職会祭式研修会

6月3日～12日

権正階検定講習会（甲）

6月22日

初任神職研修会「前段」

7月1日～10日

権正階検定講習会（乙）

7月29日～8月8日

権正階検定講習会（丙）

8月31日

部会

2月14日

神社庁例祭奉仕

2月22日

広島県女子神職会祭式研修会

② 神道行法部会

9月16日

広島県青年神職会 大頭神社

③ 祭祀舞部会

7月22日

神社庁研修会 浦安の舞「扇」

8月

部会

8月18日

神社庁研修会 浦安の舞「鈴」

8月31日

朝日舞研修会

3月10日

朝日舞研修会

④ 雅楽部会

7月11日

世羅西中学校 雅楽指導

10月3日

世羅西中学校 雅楽指導

2月14日

神社庁例祭奉仕

※六月・七月・八月に広島護國神社にて稽古を行う

令和四年度に開催された事業は右の通りです。コロナ感染症予防のため中止する研修会もありました。その中、権正階階位検定講習会は十名の参加者により開催され、受講生全員が合格し神社実習を終えた者から階位が授与されている状態です。従来は神社庁に宿泊して開催されていたので、受講生は夕食休憩後に自主的に神殿が講堂に集まり、祭式の復習を行い、作法の習得に励んでおり、作法の向上も実感していました。それがコロナ感染対策で通いに変更されたため、正規の制限数内での習得が可能か不安もありましたが、予め既定の時限数を超えた演習時間を設定するという配慮もあり無事に終了しました。

新年度については、直階階位検定講習会と各部会でも通年の研修会（特に要望も強く受講希望者が多い祭祀舞）などが予定され、折々に支部長より案内があると思いますので参加をお願い致します。

事業委員会

委員長 大巳至通

常日頃より事業部をご利用賜り厚く御礼申し上げます。

令和四年度の事業報告です。

① 神社建築視察研修の実施
昨年度も中止にしました。

② 予算について

増収増益となりました。

ウイルスの影響が残る継続的に困難極めた昨年度でしたが、微増ながら三年度に引き続き数件、売上とも前年度上回った四年度でした。

授与品・装束など原材料高騰による価格改定が実施される中、少しずつ回復傾向の年始を中心に適宜ご利用賜ったこと。また扱い品目の底辺が広がっている様子が見受けられました。有り難いことです。感謝申し上げます。

さて新年度（令和五年度）について。

ウイルス対策を講じながら、本来の活動に戻したいと存じます。

① 神社建築視察研修会

六月、鳥居が修繕された厳島神社を予定しております。厳島神社の格別な配慮を賜り観光客と一線を画す神職向けの研修内容を考えております。ご参加お待ちしております。

② 予算・運営について

三年度・四年度の実績を基にして編成しました。今年度も価格改定の波は続き、早速四月から祝詞用紙など紙類の値上げがあります。また例年春先に決まる千歳館価格も見込み段階です。現状、大変心苦しく思っております。

一方、皆様のご利用による神社庁本会計繰入金捻出には予算達成が条件となります。年々、神社界を取り巻く状況が厳しくなる中、ウイルス対策・物価上昇など加わり、大変な環境であります。皆様が氏子の神社、そして神社庁を下支えして頂くためにも引き続き「共助」のお考えで事業部をご利用頂きますようお願い致します。

庁報編集委員会

委員長 内田嘉彰

令和四年度事業報告

令和四年度は、左記の編集方針の下、活動いたしました。

一、神社庁、神社庁各委員会との連携強化を図り、情報を提供する。

二、支部通信委員による各支部、神社の活動、及び各地に伝わる様々な有形、無形の文化財等紹介記事充実。

三、シリーズ企画の推進・充実。

今年度も、新型コロナウイルス感染拡大により各社振り回され、行事等の縮小・中止が相次いだ年となりました。そんな中でも各支部による寄稿は多く寄せられました。

その他についても各方面の協力をいただき、計画通りの日程に沿って遅滞なく充実した内容で発行することが出来ました。

また社紋の調査依頼に対しましても御多忙の中御協力を頂き現在集計・分析を依頼し、徐々に形になってきております。

懸案のシリーズ企画については、未だ模索の状況が続いており実現には至りませんが、少しずつ神社界が抱える問題提起等模索しながら動き始めています。

令和五年度編集方針

一、神社庁、神社庁各委員会との連携強化を図り、情報を提供する。

二、支部通信委員による各支部、神社の活動、及び各地に伝わる様々な有形、無形の文化財等紹介記事の充実。

三、シリーズ企画の推進・充実。

四、神社界における適時な話題・課題等の掘り起こし。

充実した内容のためには多くの情報が必要です。広範囲からの情報提供をお願いします。支部通信員の皆様にはより一層の御協力をお願いします。

神社と関わりのある他業種からの情報提供も歓迎しますので、ご提案頂きますようお願い致します。

神社庁関係団体 令和四年度活動報告



広島県神社総代連合会
前会長 後 高雄

令和四年度も昨年から引き続き新型コロナウイルス感染が猛威をふるいました。令和四年度も予定された行事は慎重にならざるを得ず中止するものもありました。

広島で開催予定であった全国神社総代会は令和二年、三年と中止となり四年度は北海道に移りました。

三年続きのコロナ禍が一日も早く終息し、本来の活動ができることを望みます。

令和四年度事業報告

- 五月十六日 役員会・評議員会
- 五月二十四日 全国神社総代会代議員会
- 八月二十五日 広島県神社関係者大会
- 十月六日 全国神社総代会大会
- 十月 県神社総代会研修会(中止)
- 十一月二十八日 伊勢神宮新穀感謝祭
- 一月二十四日 神社庁・総代連合会合同新年互礼会

【事務局より報告】

昨年の役員改選で中丸元夫前会長より後高雄副会長が引き継がれ、会長に就任されました。しかしながら、今年に入り体調面での理由により、辞任願が提出され、先般五月九日開催の役員会で正式に辞任が了承され、同日開催された総代連合会評議員会において、佐藤賢一副会長が後任会長(六月一日付)に選任されました。



広島県青年神職会
会長 久保田峻司

平素から当会の諸活動に対しまして、格別のご理解とご協力を賜りまして、篤く御礼申し上げます。令和五年四月十二日に神社庁にて行われました定例総会におきまして、会長に選任いただきました。今後二年間新たな体制で活動してまいります。浅学非才の身でございますが、会員一丸となって会務運営に専心努力をしてまいれる所存ですので、ご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

さて、昨年度は定例総会、社会福祉法人みどりの町での神棚祭、神道行法錬成研修会、国旗掲揚推進キャンペーン、徳島県での中央研修会及び神社視察研修会など、コロナ禍以前に近い形で行える会務が増えてまいりました。中でも六月十八日に東広島市西条の地で当会主管にて開催した第五十五回中国地区氏子青年神道青年合同研修会では、コロナ禍での現地開催に不安視もありましたが、会員一同力を合わせて準備に励んだ甲斐もあり、中国五県の約百名が四年ぶりに集うことができました。

本年度は当会設立七十周年の佳節であります。九月六日には奉告祭の斎行、二月十三日にはメルパルク広島において記念式典の開催、記念事業のひとつとしては、記念誌「(仮)写真で見る広島神社(戦前・戦後現在)」の発行を予定しております。式典においては、是非多くの方のご参加をいただきたくお願い申し上げます。とともに、諸事業に関しましては変わらぬご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



広島県女子神職会
会長 松原ひさみ

平素より当会の諸活動につきましては、格別なるご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

本会は、平成四年三月十二日に発足し、昨年設立三十年を迎えました。

令和二年から猛威を振るうコロナウイルス感染症により二十周年の記念行事開催を見合わせておりましたが、三月二十日に、吉川通泰広島県神社庁長、福山泰江全国女子神職協議会会長始め多数のご来賓の皆様にご出席賜り無事開催することができました。これを良い区切りとして、新たな歩みを進めて参りたいと思います。

また、昨年度は、六月二日に、厳島神社(野坂元明宮司)にて正式参拝を行い、修復中の大鳥居工事を見学させていただきました。その後、地御前神社に移動して、御陵衣祭に参列。旧端午の節句のお祭りということで、かわいらしい初端午の赤ちゃんと一緒に、舞楽、流鏑馬神事を奉拝させていただきました、大変有意義な研修となりました。

昨年前半は、コロナウィルスの感染状況により、祭式研修を午後からの開催に、朝日舞研修は中止にさせていただきました。過去一年間と同じく感染者数と相談しながらの活動でしたが、令和五年に入つてからの元国際風水学研究所事務局長 小畑朝子先生の風水学の研修や、祭式研修は、コロナ前のように開催でき、参加者も徐々に増えてきております。

本年も様々な事業に取り組んで参りたいと思います。何卒よろしくお願い申し上げます。



広島県敬神婦人会
会長 吉川明美

日頃より、当会の活動に対しまして、ご理解ご支援を頂きまして、誠に有難うございます。

令和元年度末よりのコロナ感染症の影響は、令和四年度に入りましてもありました。

令和四年度は、四十周年を迎える記念の年で、本来であれば「記念式典・祝宴」を大勢の皆様とお祝いしたいところでしたが、出席人数を制限し、広島東照宮にて正式参拝・四十周年の奉告祭の後、神社庁で記念総会を開催しました。

八月には広島県神社関係者大会も開催され、そのお手伝いに十六名参加致しました。

九月に入り、三年ぶりの全国敬神婦人大会が東京(明治神宮会館)で開催され、広島県から二十二名で参加して、有意義な時をすごして参りました。

また、恒例の「日の丸小旗製作」は、コロナ禍で全国的に諸行事が縮小し在庫を多く抱えているということで、作成要請がない為に中止と致しました。

令和四年度、最後の行事になりましたが、三月二十七日に役員研修として三原の「御調八幡宮」に正式参拝し、宮司様のお話を伺い、桜満開の中思い出深い時を過ごして参りました。いずれも、マスクをしての行事参加でしたが、大過なく終了できましたことに感謝致します。

令和五年度は、五月十七日に総会、午後からは、熊野神社宮司「宮田修先生」をお迎えして四十周年記念講演会を開催いたします。チラシを作成し、広く皆様にいらして頂きますように計画準備してまいります。

感染症も終息に向かう事を願いつつ、それでも安全対策を万全にして、各行事に臨む所存でございますので、今後共ご支援ご協力、何卒よろしくお願い申し上げます。

非公表

非公表

新任・転入 神職紹介



広島市支部
饒津神社
権禰宜 浅野 薫



広島市支部
三篠神社
権禰宜 野上光規



呉支部
春日神社
権禰宜 内藤雅史



因島瀬戸田支部
八幡神社
権禰宜 坂本恭子



沼隈支部
八幡神社
権禰宜 重白和希



佐伯大竹支部
厳島神社
権禰宜 飯田 圭



佐伯大竹支部
厳島神社
権禰宜 海野亮太



佐伯大竹支部
八幡神社
権禰宜 廣兼孝明



佐伯大竹支部
大歳神社
権禰宜 飯田志保

事務局だより

お慶び

この度、土井泉神社広島市安佐北区安佐町飯室鎮座の河野修興宮司が「紫綬褒章」を受章されました。洵におめでとうございました。これからも健康に留意され斯界・地域の為、益々の御健勝と御活躍をお祈り申し上げます。

祝当選

四月二十三日に呉市議会議員選挙に立候補された新宮神社禰宜の梶山政孝氏が見事に当選されました。健康に留意され、今後のご活躍を期待します。

新入職員紹介



録事 浮田敏人

本年四月一日付をもつて神社本庁より広島県神社庁の録事に就任致しました。

就任して二ヶ月が経とうとしておりますが、神社庁の業務や職場環境に慣れるために日々試行錯誤を重ねているところであります。

二ヶ月間、神社庁の業務を行うにあたり、地域に根ざし、地域に寄り添うことや幅広い分野の知識や対応が必要であると感じております。

豊田竹原支部 宇津神社 宮司 越智正浩



早く神社庁での業務に慣れ、県内神社関係者の皆様から求められる事に適切に対応できるよう研鑽を積んで参りますので、ご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い致します。

回またやつて欲しいとリクエストが多く、非常に人気の高い講義です。

令和四年もひと月を切り、年末の忙しさを感じ始めた十二月五日広島県神社庁に於いて神社実務研修が開催されました。

開講式の後、講師に富松神社の宮司久田松和則先生をお迎えして講義Ⅰ『神宮大麻頒布百五十年に寄せて 伊勢を祀る・参る』の講演をして頂きました。



講義では、大麻を頒布していた御師の中心から近代までの活動や江戸時代の伊勢の風景画や御師の邸宅の復元図を資料にした当時の解説等をして頂きました。特に御師の邸宅の復元図は初めて見ましたが、まるで旅館のようで伊勢参りに来られた方を丁寧に迎えていたことがうかがえました。そして、御師という存在がどういった活動をしていたのかを改めて学ぶ事が出来ました。また、「伊勢大麻は御神体なのか」の講義では浄土真宗僧・自督が御祓大麻の否定・神棚下ろしを主張したことに対して反論した書についてや、伊勢大麻の配札に御師が苦悩していたことを聞き、御師の活動が必ずしも順風満帆ではなかったことをうかがい知る事ができました。現在、人口の減少も激しく、高齢化も進みつつある状況で神宮大麻頒布の難しさを感じています。しかし、長い歴史を誇る神宮大麻を疎かにすべき事ではありませんので、

午後からの講義Ⅱは『祖霊じまい・霊璽の書き方について』の講師として亀山神社の名譽宮司 潮健史先生に講演して頂きました。この講義はここ最近教化委員の研修参加者アンケートでも毎

事、本来そうしなければならないものが時代とともに価値観が変わってきているのではないかと思います。祖霊じまいや神葬祭などの講義に関してはまだまだ希望される方も多いと思いますので、講師の方のご都合にもありますがこれからも講演をして頂ければ幸いです。

巴紋【その2】 巴紋の歴史

日本中、どの神社にお参りしてもオタマジャクシが三つ、鉢合わせしたような「巴紋」にお目にかかります。旧郷社以上では国内の神社総数の三割を占めています。まさに日本の神社は「巴紋」をもって代表されているといっても過言ではないと思われます。

「巴紋」は、何を意味しているのでしょうか。一説に、「行雲流水」を形どったといい、また「渦巻」を図案化したとか、「勾玉」の変形、「胎児の姿」とも言われています。

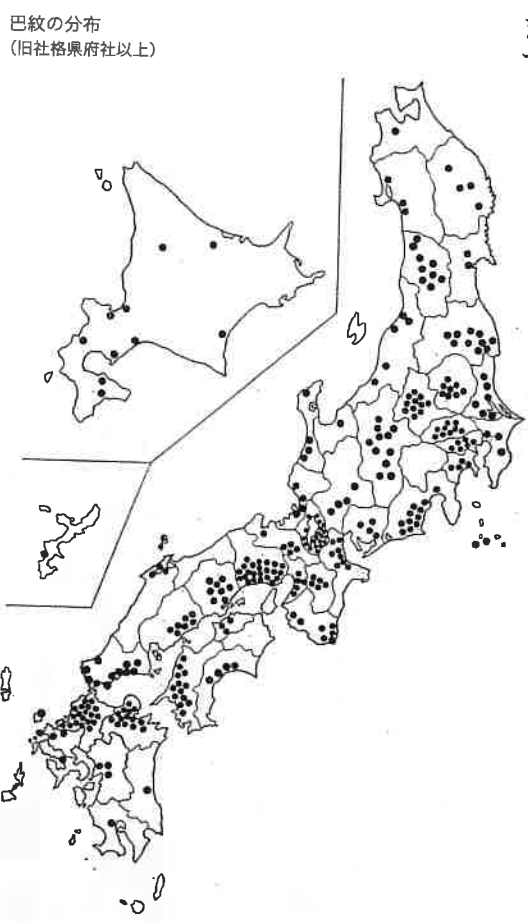
元来、古代人は字を書くことより絵で表すことを好んでいました。「流水」や「雲気」などの表現が大陸文化の到来とともに現在の形になり、平安時代末期には「巴紋」の大流行となり、神社など神のまします聖域に多く用いられるようになりました。

巴紋使用の神社の大部分は「三つ巴」です。模様としての「巴」が最も均整のとれた形になっているので、この形に落ち着いたといわれています。

「いくさ神」ご紋どころは 陣太鼓

むかしから軍神である八幡さまのご紋は、あの陣太鼓についている「巴紋」です。八幡さまの祭神は、新羅征伐で名高い、氣長足姫尊(神功皇后)とその御子の誉田別尊(応神天皇)です。その八幡宮の総本社は九州大分県の宇佐神宮。その後、京都の石清水八幡宮そして鎌倉の鶴岡八幡宮に祭られています。全国約二

万五千の八幡社は、ほとんどがこの三社の御分社です。鎌倉時代以降の武家の時代は、まさに「巴紋」の時代といわれ、八幡社でなくても、神社に「巴紋」を使っていたと考えられます。



巴紋の分布
(旧社格県府社以上)

紋の分布(旧社格県社以上)

出典:『神紋総覧』丹羽基一 講談社 平成28年刊

巴紋の左右呼称について

巴紋の左右呼称問題は長い間、家紋研究において最大の論点です。巴紋には細い部分(仮に尾)から円い部分(仮に頭)に至る進行方向が時計回りのものと、その逆の反時計回りのものがあり、用法などにおいて区別がされることがあります。今まで、それらに右と左の名を与えた名称が用いられて来ましたが、それがどちら向きのもを意味するかは時代や文献などにより、

必ずしも一定していません。

例えば、家紋を描く上絵師は、その技法上の理由から尾が流れてゆく方向に従って名称としており、簡単な見分け方として親指を外に出して拳を握った時、左巴は左手の親指が指し示す方向、右巴は右手の親指が指し示す方向を参考としています。歴史的にはこの使用例が多くみられます。

大正十五年(一九二六年)、沼田頼輔は『日本紋章学』において、その名称の由来を雅楽に用いられる大太鼓に意匠された巴文



反時計回りの三つ巴



時計回りの三つ巴

様に求めました。沼田は最も古式を留める雅楽を行う四天王寺の大太鼓の配置を参考とし、『四天王寺聖霊絵巻』に描かれる大太鼓の巴文様を引用し、左に置かれた大太鼓に三つ巴、右に置かれた大太鼓に二つ巴が描かれることから四天王寺の三つ巴の回転方向を 左巴(頭が左向き)、二つ巴の回転方向を右巴(頭が右向き)と説いています。さらに説話集『江談抄』(一一〇四年〜一一〇八年頃に成立)には「太鼓乃左右ヲ知事ハ、左ハハ輓絵乃数三筋也。亦筒モ赤ク色採ル也。右ハ輓絵乃数二筋、筒モ青ク色採也」と記され、また法隆寺所蔵の大太鼓の銘文には、二つ巴の太鼓には「右方」、三つ巴の太鼓には「左方」と記されていることにも言及し、自説を補強しています。この説は丹羽基一や加藤秀幸(拓殖大学名誉教授)も度々支持しており、紋章学者にはこの説を支持する者が多くいます。

一方、日本家紋研究会の高澤等は、平成二〇年(二〇〇八年)に発表した著書で家紋としての巴文様は、その成立時期から

長保四年(一〇〇二年)に定められた「御神楽ノ儀」による大太鼓に触発される形で発生したとしながら、沼田が引用した『四天王寺聖霊絵巻』の大太鼓は、下座から見た図であり本来向きが逆であることを指摘しました。また『江談抄』や法隆寺所蔵の大太鼓の銘文、また『摂州四天王寺年中行事』の説明文なども大太鼓を据える位置を示しているが、いずれも巴の回転方向に対して言及していないと指摘しました。さらに『四天王寺聖霊絵巻』『四天王寺図屏風』『摂津名所図会』に描かれる巴文様や、また四天王寺、伊勢神宮、宮内庁などで使用される大太鼓に描かれる巴紋の回転方向がバラバラであることを示して、本来「巴」における左右の意味は、二つ巴の大太鼓(右側)と三つ巴の大太鼓(左側)を据える位置を示すものに過ぎず、その回転方向を示してはいないとし、当時、三つ巴はどの方向に回転していても左巴であり、二つ巴も同様に回転にかかわらず右巴と呼んでいたのではないかと論じています。そして対で用いられた大太鼓から一個の文様で描かれる家紋となり、その回転方向を指し示す必要が生じたことから混乱が始まったとし、本来、大太鼓に描かれる巴紋は雷を表すものであり、頭と呼ばれる部分は打点で、叩くことによって発生した轟音(雷)が飛んでゆく方向、つまり尾が流れてゆく向きを名称とするべきであるとしています。

そこで、広島県神社庁 庁報編集委員会では、時計回りの三つ巴を(左三つ巴)、反時計回りの三つ巴を(右三つ巴)として、掲載していきます。



右三つ巴



左三つ巴

広島県女子神職会設立三十周年記念行事報告

広島県女子神職会

副会長 高橋育代

令和五年三月三十日広島県女子神職会は設立三十周年記念行事を開催いたしました。コロナ禍で開催が危ぶまれる時期もありましたが会員一同結束して、心に残る三十周年を迎える事ができました。最初に広島県神社庁講堂において、斎主に久保田桂子、副斎主に飯田康子、祭員に川口弥生・幣原佐衣子・櫻井一穂、典儀に田中律子、舞姫に横田欣子・廣瀬紋佳、伶人に上河内京子・井口幹子・吉原千尋の会員で奉告祭を御奉仕いたしました。久保田先生と横田先生の御指導のもと熱心に習礼を重ねられた賜物で、息の合った優雅で流れるように美しい祭典でした。

記念式典での松原ひさみ会長の式辞では、平成四年三月十二日原八重子初代会長のもとで、当初の会員には大変な御苦労されて女子神職会を設立され、そのおかげで祭式研修を始めとして祭祀舞研修、古典輪読、教養研修と研鑽を重ねてきたこと、そして三十周年記念行事の開催に当たり、神社庁の皆様、関係者の方々へ感謝の言葉を述べられました。次に御来賓を代表して吉川通泰庁長様よりご祝辞を賜りました。奉告祭での祭典が素晴らしかったですと、大変ほめていただき、またこれからの神社界の女子神職の重要性をお話しされました。引き続き、福井からお祝いに駆けつけてくださった全国女子神職協議会会長の福山泰江様は、広島県女子神職会



広島県女子神職会 設立三十周年記念式典

全国で五番目の登録会員数になったことや、桑原八千代会員とのエピソードなど沢山の思い出がいっぱい楽しそうに御祝辞を述べられました。

厳粛な奉告祭と記念式典の後は、会場をホテルグランビアに移動して祝賀会を開催しました。松原会長の御挨拶の中で、記念品の風呂敷に描かれている挿絵は設立当初からの末田雅子会員が稲穂と吉兆を表す蜻蛉を描いてくださいましたことの説明がありました。それから続いて吉川庁長様と福山会長様に御祝辞をいただき、渡部副庁長様の乾杯の御発声で、グランビア料理長自慢のフレンチをいただきました。祝宴の合間にアコースティックインストデュオ「さらさ」に此の季節に合わせて、さくらにちなんだ曲やオリジナル曲を演奏していただき、おいしいお料理と彩り豊かな音楽を堪能しました。

三十周年の佳節を迎えるに当たり、渡邊百合枝前会長が計画立案をされ、寄附集め等到大変な御尽力をされ、これからというときに残念ながら体調を崩され、急遽バトンを渡された松原会長は、大変御苦労されたことと存じます。しかしながら、先輩会員も新入会員も日頃より互いに協力しながら共に学び、高め合うという心構えが、この度の三十周年記念の行事を立派に開催できたことにつながったと存じます。こうしてこれからも、関係者の皆様に支えられながら、十年先、二十年先と広島県女子神職会は飛躍していくことと期待しています。



支部だより

広島市支部

「藤本宮司神職身分特級昇進祝賀会」

去る三月二十一日(水)、広島市中区基町にあるリーガロイヤルホテル広島にて、「広島護國神社・藤本武則宮司の神職身分特級昇進を祝う会」が開催された。

当日は神社関係者や企業の代表ら約九十名が出席。始めに広島県出身で篠笛奏者の秋吉沙羅氏により国歌が演奏された。次に広島護國神社責任役員の増岡真一氏による発起人代表挨拶。さらに広島県神社庁長の吉川通泰氏、広島県遺族会会長の篠原彌之氏が来賓祝辞を述べた。その後藤本宮司による謝辞、祝電披露が行われ、広島護國神社責任役員の中尾建三氏の乾杯発声により祝宴が開かれた。

祝賀会は二時間ほど行われ、広島護國神社責任役員の山本茂樹氏の発起人謝辞により閉会された。

(池田憲明 通信員)

広島護國神社 藤本武則宮司 神職身分特級昇進を祝う会



三次支部

「二十五年ぶりとなる沖江田楽の奉納」

去る令和四年十一月六日に三次市三良坂町灰塚に鎮座します宗像神社(佐々木潔宮司)にて、神社本庁が推進する「過疎地域神社活性化推進施策」の一環として、二十五年ぶりとなる沖江田楽の奉納が行われました。この「沖江田楽」は市無形文化財に指定されており、保存会が約四十年前から子どもたちに指導して継承してきた農の伝統芸能です。当初は田植え時期の開催を予定していましたが、新型コロナウイルスの影響で秋に延期となり収穫を祝う形での開催となりました。

当日は来賓、関係者が参列の下、神職四名が清めの神事を営んだ後、境内の広場を水田に見立て、腰に太鼓をくくり付けた男性陣が太鼓を叩き、地元の子どもたちや住民が早乙女姿で稲の苗を植える所作を華やかに繰り広げ、観覧に訪れた氏子を含む約百名を魅了しました。地元に残る文化を感じることの大切さを感じる一日となりました。

(小島直樹 通信員)



深安支部

「神道裁許状」

我が家の古文書の整理を始めたが、神道裁許状という書がいくつか出てきた。最も古いものは明暦二年(一六五〇)のもので、新しいものは文久三年(一八六三)の幕末のものである。

調べると神道裁許状とは、江戸時代「吉田之許状」を得て、神事の時に風折烏帽子、狩衣の着用を許可するもので、公家で京都吉田神社の神職家であった吉田家が発給する許状であり、神職の身分保障を行うものであった。奉仕者の神主が代替わりごとに神道裁許状を得るものであった。我が家にあつたものは九つで、明暦一年の許状では鬼原村(徳田村)の天神、八幡宮の二社から始まり、その後、十九軒屋村、百谷村(加茂)、川北村(現神辺)、中津原村の計十社の祠官を許可するものであった。最後の文久三年の許状は、徳永淡路が得ており、私の名前はこの人から頂いていることが判明した。

(徳永淡路 通信員)



尾道御調支部
「七段の雛飾り」
 三月三日の桃の節供は、女の子の成長と健康をお祝いするひなまつりです。ひな人形を飾るご家庭も多く、親子孫三代一緒になって大きな畳敷の部屋に雛壇を組んで、お内裏さまをはじめ三人官女や五人囃子、随臣、仕丁など、その役割と意義を学びながら飾り付けていました。
 併し、核家族化が進み、子どもたちが祖母から伝統文化を学べる機会も減りました。また生活様式の西洋化で家具が増え、雛壇を組めるような大きな畳敷の部屋も少なくなっています。
 向島鎮座の厳島神社では、毎年大きな七段飾りの雛人形を大勢の親子が一緒になって飾り付けを行っています。今年は天然素材だけを使った三色菱餅づくりも行いました。桜の花びらだけでは鮮やかな赤い色のお餅が作れない為、和菓子づくりの職人さんに倣い、農家さんからいただいた火焔菜をすり下ろして、真っ赤な搾り汁を加えて作りました。
 而して、ひな祭りが終わると愈々田植えの季節を迎えます。
 (郡山龍 通信員)



(神原勇気 通信員)

福山支部
「新涯村墾田紀功碑」
 塩崎神社の境内にある「新涯村墾田紀功碑」はこの地を豊かな農地にするべく尽力した先人たちの功績を記したものです。
 当神社の鎮座する大新涯の地は、幕末の福山藩の財政立て直しの命運をかけた大干拓事業により生まれしました。その際工事の安全を守るために大新涯の村々にお祀りされていた小祠を一つにまとめたものが現在の当神社の形となっております。
 碑文には、「広くはるかたる青い海が、転じて良田と為る…」と記されています。
 塩分の多い土地を豊かな実りある農地にする為に、先人方には大変な苦労があった様です。その後も二度の堤防決壊などこの地域は、度々の水害に悩まされてきました。先人たちの苦労に思いを馳せながら平和な日々が続きますようにと日々お祈りをいたしておりますが、来るべき大地震に備えて神社の防災対策と、地域の総鎮守としての御役目をどう果たすべきか、考えるべき時が迫っているのではないかと感じています。
 (神原勇気 通信員)

山県東支部
「歴史民俗研究会」
 北広島町内には駿河城、小倉城、日山城の三つの城跡があり、地域にはどんな歴史物語があるか、大朝の歴史を語るに欠かせないのが吉川氏の存在です。
 三月八日(水)平田義孝(集落支援員)氏を講師に招いて北広島町大朝地域づくりセンターにて講演会を行いました。安芸の国は平清盛の絶大な厳島信仰を媒介として壬生庄、志路原、寺原、三角野は厳島の杜領となり名を残しています。吉川氏は駿河国(静岡県)の吉川経光が承久の乱で安芸国大朝本庄の地頭職を得ることに始まり、経高の時代に大朝本庄に移りました。この地域に残る吉川氏の山城とともに吉川氏墓所、館跡、屋敷跡など散策される皆様の一助になれば幸いです。
 (石橋正敏 通信員)



三原支部
「三原支部神宮大麻暦頒布始奉告祭」
 去る令和四年十一月十八日に三原市鷺浦町向田野浦に鎮座する八幡神社(山田修宮司)にて吉川通泰庁長参向の下、神宮大麻暦頒布始奉告祭が斎行された。
 当日は午後一時三十分より山田宮司を斎主として祭典を斎行、一同互礼、修祓、斎主一拝、献饌、祝詞奏上、玉串拝礼では斎主(祭員列拝)に続き庁長(随員同拝)が拝礼。次に田坂雅晴支部長(支部内神職六名同拝)、宮上修総代長(総代二十名同拝)の順に拝礼。
 次に撤饌、斎主一拝、次に神宮大麻暦を斎主より庁長に頒ち、庁長より支部長に頒ちて一同互礼にて斎了。その後、庁長よりご挨拶を頂き、次に支部長が挨拶。各自一体でも多くの大麻頒布をとの意気込みが語られた。大麻と共に土産のみかんを持ち帰った。
 当日は快晴の小春日和にて、庁長を中心に各神社間の和やかな交流もでき、大変有意義な日となった。
 (桑原光彦 通信員)



深安支部
「神宮大麻頒布始奉告祭・神職総代会合同総会」
 深安支部にて令和四年度の大麻頒布始奉告祭、及び神社総代会・神職合同総会を支部の神職、神社総代を集めて十一月十一日にJA湯田支店にて行つた。来賓として、広島県神社庁の副庁長である沼名前神社の奥茂宣宮司に御臨席賜った。
 第一部として、石原史裕支部長が斎主を務められ、大麻頒布始奉告祭を挙行した。第二部として、合同総会を行うにあたり、国歌斉唱、神宮遥拝、敬神生活の綱領唱和を行い、来賓挨拶、支部長挨拶、神社総代会長挨拶の後、今年度の活動報告、来年度の活動予定、深安支部の「神社巡り」幟・ボールの受注状況の説明がされ、会を終了した。コロナのため、直会はず散会した。
 支部長より、コロナ対策の依頼、及び大麻頒布の数量アップの依頼があった。
 (徳永淡路 通信員)



安芸高田支部
「歳旦祭と元就郡山入城五百年」
 郡山城の麓、毛利元就縁の安芸高田市吉田町鎮座の清神社に於いて令和五年歳旦祭が斎行された。皇統の繁栄、五穀豊穡、地域の平和と繁栄などに加えコロナ収束を祈念した。
 神事には石丸伸二市長をはじめ副市長、教育長も参列、田丸道男総代長に続き玉串を奉奠した。今年は毛利元就郡山城入城五百年目の大きな節目を迎える。安芸高田市はこの機を捉え市の誇り、シンボルとして市民の一体感醸成、市の発展・活性化に繋げていくため、歳旦祭に合わせ取組みのカウントダウンをスタートさせた。神事に続き元就と隆元、元春、隆景の三兄弟が取組みの成就を願い市長に三ツ矢を託した。
 神楽はコロナ禍で中止していたが、入城五百年の取組みの一つとして三年ぶりに「厳島合戦」を吉田神楽団が演じた。
 参道には感染防止注意喚起の看板設置し、一方通行にして、鈴緒も外すなどの対策を行った。本殿前では参拝者のために火を焚いたが、年末からの大雪で寒さの厳しい初詣となった。
 (波多野公一 通信員)



世羅支部

「神社しめ縄づくり」

世羅郡世羅町西大田地区は人口が約一六七〇人、七六〇世帯の地区です。この地区には八幡神社、長神社、菅原神社、八雲神社、厳島神社、賀茂神社など九社の氏子神社があります。その中にはしめ縄を毎年手作りされている神社が数社あります。年々しめ縄に使う稲わらが手に入りづらくなっているのですが、西大田地区では長年総代を務められている方が稲わらを提供してくださっているのです。

しめ縄用の藁は長めの品種がよいので、その方は以前より籾柄は黒いが稲わらが長い、いわゆる古代米の栽培に取り組みれています。刈り取った稲は竿に掛けて自然乾燥し、切り口が傷まないように根元を黒ビニールで被覆し、さらに青みを残すために寒冷紗で全体を覆っています。最近ではその大変さに共感し、地区の老人クラブわかば会も収穫作業に協力してくださるようになりました。十二月初旬には世代間交流会として各家庭用のしめ縄づくりが開催されました。この会には飾り作りを担当した西大田ふれあいサロンの方々や子供や若者など総勢二十五名が参加しました。

参加者は手作りのしめ縄で年を越すのは格別と楽しまれました。年末には神社総代が集まり大しめ縄と門松を造られています。今、全国的に稲わらを作られる方も、指導に当たる方も高齢化しており、この地区のような継承への取り組みが急務です。

(竹廣浩一 通信員)



府中芦品支部

「しめ縄プロジェクト」

府中市河佐町の長神社(廣瀬紋佳宮司)では、令和四年十二月十五日、午後七時より神社文化研究家として神社関係の書籍監修などを行っている「一般財団法人 国際教養振興協会 代表理事の東條英利(東條英機氏の直系曾孫)」先生をお迎えし、お正月の準備として氏子および神社関係者二十名が参加して講習会を行いました。内容は『お正月の意味』をテーマとして、お正月飾りの意味や、正月におもちを食べること、お年玉を配ることについての約一時間の講演の後、参加者が二人一組でしめ縄を編む実技を約一時間行いました。しめ縄づくりは、一人が根元を持ち、もう一人が稲穂を捻りながら組んで、それぞれ世界に一つの自分のしめ縄をつくりました。参加者は、新年を迎えるにあたり、自分のしめ縄を掲げることにより、佳き年を迎えることを祈念しつつ帰路に就きました。

(尾多賀晴悟 通信員)



広島市支部

「広島市支部懇親会」

去る三月八日(水)、広島市支部では、クルージングシップ『銀河』に乗船し、クルージングデザイナー懇親会を行なった。

当日は市内神社関係者三十九名が参加。午後六時五十分には広島港を出航、同時に瀬谷建紀宮司(草津八幡宮)の乾杯の挨拶により懇親会が開会された。本格的なフレンチコース料理を始め、クルーズの途中には船上デッキテラスにて、ライトアップされた厳島神社の大鳥居や広島ベイブリッジといった夜景を堪能。大人はもちろん子どもたちも大いに喜びを見せていた。懇親会は二時間程行われ大盛況のうちに幕を閉じた。

(池田憲明 通信員)



神石支部

「大注連縄の奉納」

神石高原町小島鎮座の龜山八幡神社(松井孝之宮司)では、昨年の十二月四日に随神門に長さ八m、重量は凡そ七五〇kgの大注連縄が奉納された。この事業は昭和二十四年に敬神の念篤い氏子の発案により始まったとされ、それから凡そ五年ごとに架け替えが行われている。

奉納する年が廻つて来ると、先ずはこの田を選定するかについて氏子が相談を行い、田の場所が決まると、田植えに始まり夏の除草にと多くの氏子等が協力し合い、秋の稲刈りを迎える。最近ではコンバインによる刈り取りが行われているが、長さがまちまちになって良質な藁が取れないので稲刈機で刈り取り、昔ながらのハゼ干しを行い自然乾燥の後、脱穀をしてから作業場に運ばれる。

緋い始めに安全祈願祭を行い、一番に藁を編む作業が開始される。大きな一枚の藁が出来上がると、藁の中に藁がすっぽ抜けないよう絡めて巻き入れ一本の大縄が作られる。二本が出来上がると、先ず二本を充分に振つてから三本目はそれに巻き付けて三本縊りの大注連縄が完成する。

大勢の力と技術が無いと見栄え良く縊り上げる事が出来ないため、参加者は試行錯誤しながら伝統の継承に努めている状況にある。

奉納日には多数の氏子が集い、随神門に架けられると清祓が行われた。松井宮司より「年末年始に参拝される方々は大変ですが、感謝される事と思います」の言葉と共に、これまでの作業と奉納に尽力された氏子にお礼の挨拶があった。

(福場快之 通信員)



呉支部

「高尾神社のきざみ石」

高尾神社(梶山友美宮司)は、令和四年十二月二十六日に子どもたちの健やかな成長を願う「きざみ石」を境内に建立した。

御影石で造られており、前面に二百センチメートルまでの目盛りが縦に刻まれ身長を測ることができる。裏面には、氏神様に子孫繁栄・家運隆昌を

支部だより

末永く見守って頂くようにと、奉賛者の子どもさん・お孫さん約六十名の氏名が刻まれている。参拝者が子どもや孫の身長を測りながら思い出も刻んで欲しいとの思いから「きざみ石」と名付けられた。

(横田光則 通信員)



本報「二葉」第150号をお届けします。発刊に際しましてご協力いただきました皆様方に対し厚くお礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染者も減少しています。神社の行事も例年並みに戻りつつあります。気を緩めず感染予防に努め神社の賑わいが戻りますよう頑張ってください。

本報編集委員一同

編集後記



広島市支部 「カープ必勝祈願」

去る三月二十八日(火)、広島市中区基町に鎮座する広島護國神社(藤本武則宮司)にて、広島東洋カープの松田元オーナーと新井貴浩監督をはじめ、選手、スタッフら計四十八人が参拝し、必勝祈願祭が斎行された。

藤本宮司の祝詞奏上後、豊栄の舞を

奉奏。そして松田オーナー、新井

監督、大瀬良大地選手会長が

順次玉串奉奠を行い、五年ぶ

りのリーグ優勝と三十九年ぶ

の日本一を祈願した。さらに新井

監督と大瀬良選手会長は、日本一と願掛けをした絵馬を奉納した。

大瀬良選手会長はメディアのインタ

ビューにて、『優勝と日本一に向けてしつかりと頑張ります。』とお願いをした。新井

監督のもとでみんな一体感を持って、いい

事も悪い事もあると思うが、どんな時でも

しっかりとチームで乗り越えていけるよう

に一生懸命頑張っていきたい。」と話した。

(池田憲明 通信員)



支部だより

安芸高田支部 「サンフレッチェ広島必勝祈願」

今年のJ1リーグ開幕戦を前に、恒例となっているサンフレッチェ広島必勝祈願祭が、二月十五日(水)戦国大名・毛利元就の居城でもあった郡山城の麓、毛利元就ゆかりの安芸高田市吉田町鎮座の清神社で執り行われた。

監督、選手、スタッフ、フロン

トが参拝した。

祭祀に先駆け荒木隼

人、野津田岳人両選手

が思いを込めて「祈制覇」

と記した、ひととき大きな絵馬を奉納した。波多野八朗禰宜

の祝詞に続き、仙田信吾社長、ミヒヤエル・スキップ監督、佐々木翔

選手が玉串を奉奠し必勝を祈願した。スキップ監督が甲冑姿の毛

利元就に扮した市職員から「三矢の訓」にちなんだ三本の矢を受

取った後、安芸高田市石丸伸二市長が市民を代表して激励の挨拶

を行い、関係者のみで執り行われたコロナ禍での必勝祈願祭を無事終了した。

サンフレッチェ広島は十八日、エディオンスタジアム広島にコンサ

ドーレ札幌を迎えて今季の開幕戦を戦ったが、惜しくも0対0で

引き分けた。



(池田憲明 通信員)

(波多野公一 通信員)